

明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会

第1回 農産物等研究専門部会

平成26年5月26日（月）14:00～16:00

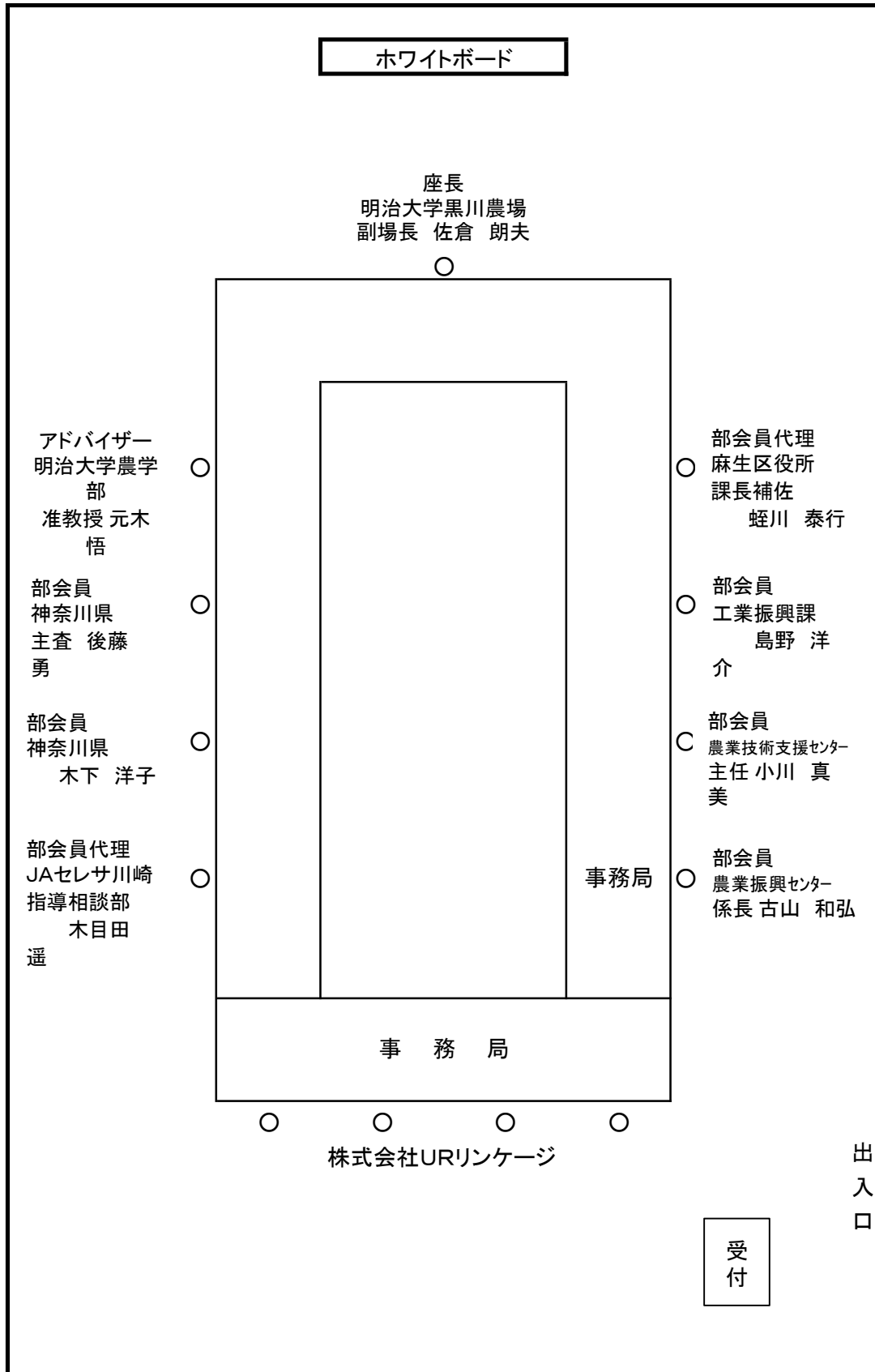
明治大学黒川農場 本館1階会議室

次 第

- 1.開会のあいさつ
- 2.メンバーの紹介
- 3.座長からのあいさつ
- 4.農産物等専研究門部会の方向性について（資料説明）
- 5.今年度の取組み内容等に関する検討
- 6.総括
- 7.閉会のあいさつ

以上

第1回農産物等研究専門部会座席表



平成26年度
農と環境を活かした
まちづくりの推進

農産物等研究専門部会
第1回専門部会 説明資料

平成26年 5月26日

目次

■麻生区 農と環境を活かしたまちづくり	
01. 農と環境を活かしたまちづくりの推進	4
02. 上位・関連計画	5
03. 実施体制と役割分担	6
04. 各専門部会の関わりと連携効果	7
05. 実施スケジュール	8
■農産物等研究専門部会	
01. 黒川地区等における農業資源	10
02. 市民アンケート結果まとめ	11
03. 市民アンケート結果	14
04. 農業従事者アンケート結果まとめ	17
05. 農業従事者アンケート結果	18
06. 部会の活動に向けたニーズの整理	20
07. 取組みの方向性（案）	21
08. 取組みの試行的展開（案）	22
09. 今年度の試行的取り組みの選定	23
10. 今年度のスケジュール	26

麻生区 農と環境を活かしたまちづくり



- 3 -

1 農と環境を活かしたまちづくりの推進

黒川・岡上・早野周辺地域での課題

農が抱える課題

- 都市農地の再評価と保全策への対応
- 農家・農業後継者の減少
- 農業経営の転換への対応
- 「農」に対する全市的な合意形成

解決の方向性

- かわさき「農」の新生プランにおける推進体制の確立

緑が抱える課題

- 多摩丘陵の保全にむけ、農業政策と緑地保全施策の連携が必要となっている。
- 里地里山環境の保全と「農ある風景」の継承が求められている。

解決の方向性

- 市民協働による地域ぐるみの緑地保全活動の推進

地域が抱える課題

- 第1期区民会議の議論
区特性である「農」を通じた「地域づくり」への活かし方
- 第3期区民会議の議論
市域の緑が43%集積する区の緑の維持管理の仕方及び市民ボランティアなどの力の活用方策

解決の方向性

- 区の資源である農と緑を活かしたまちづくりの推進

地域・関係者間での課題解決への施策検討・計画及び試行実施



黒川地域での変化（地域資源の創出）

- 平成20年に大型農産物直売所「セシサモス」の開所
- 平成24年に明治大学黒川農場の開場

黒川地域連携協議会：平成21年設置（平成25年度改訂）

- 目的：** 明治大学と川崎市が「農業研究・実験機能」、「山林の保全と活用機能」及び「農業体験・交流機能」における連携を通じた地域づくりを推進することを目的とする。
- 組織：** 具体的活動を推進する「農産物等研究専門部会」「地域活性化検討専門部会」「里地里山保全活用専門部会」の3つの部会を立ち上げ、相互連携を図りながらテーマに沿った活動を推進する。

- 4 -

2 上位・関連計画

かわさき「農」の新生プラン～（H17～26）川崎市農業振興計画

■ 川崎市の「農」が抱える課題



■ 基本的な考え方

「農業」 → 「農」 への発展

産業としての農産物の供給を主な目的としてきた「農業」とともに、市民にうらおいと安らぎをもたらす多面的な機能、公益的な役割を含めて農業・農地を「農」と表現している。

■ 基本目標

かわさき130万市民
「農」のあるライフスタイルをめざして

- #### ■ 基本施策
- ① 「市民とつくるかわさき農業」の振興
 - ② 「農」に親しむ仕組みの確立
 - ③ 「多面的な機能を発揮する都市農地」の保全と活用
 - ④ 推進体制の確立

3 実施体制と役割分担

黒川地域連携協議会

- ◆ 黒川地域関係者の連携・相互協力を図り、農と環境を活かしたまちづくりを推進
 - ◆ 部会間の調整、黒川地区の農と環境を活かしたまちづくりの方針・計画等の承認
- 【構成】 明治大学農学部、明治大学黒川農場、JAセレサ川崎、神奈川県農政部署、地元関係（地元町内会など）、川崎市建設緑政局、川崎市麻生区、川崎市経済労働局
- 【事務局】 川崎市経済労働局農地課

農産物等研究専門部会

【目的】

将来、農畜産物、林産物及びその他の加工品の栽培や販売などにおける課題を整理し、地域の活性化につながる農産物等の調査・研究を行う。

【役割】

農産加工品の検討や開発、商品化に向けた検討推進等

【事務局】

川崎市経済労働局農地課

地域活性化検討専門部会

【目的】

農や緑、環境を通じた地域の活性化や地産地消の推進につながるイベント等の実施や必要な施設等の検討を行う。

【役割】

地域連携イベントの企画・推進、地域資源の有効活用・PR

【事務局】

川崎市麻生区企画課

里地里山保全利活用専門部会

【目的】

多摩丘陵の里地里山の地域的価値を見出し、里地里山の保全、再生、活用を目指す。

【役割】

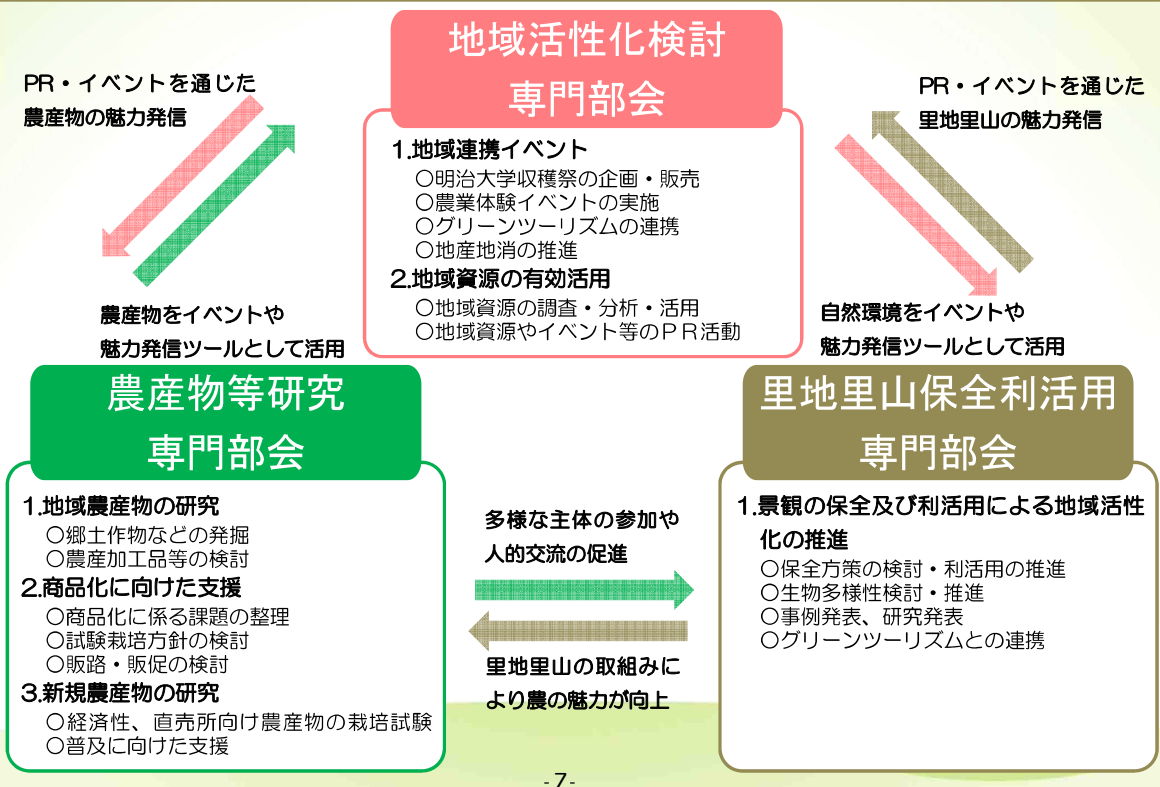
里地里山の保全・再生・活用等の企画・実施

【事務局】

川崎市建設緑政局みどりの協働推進課

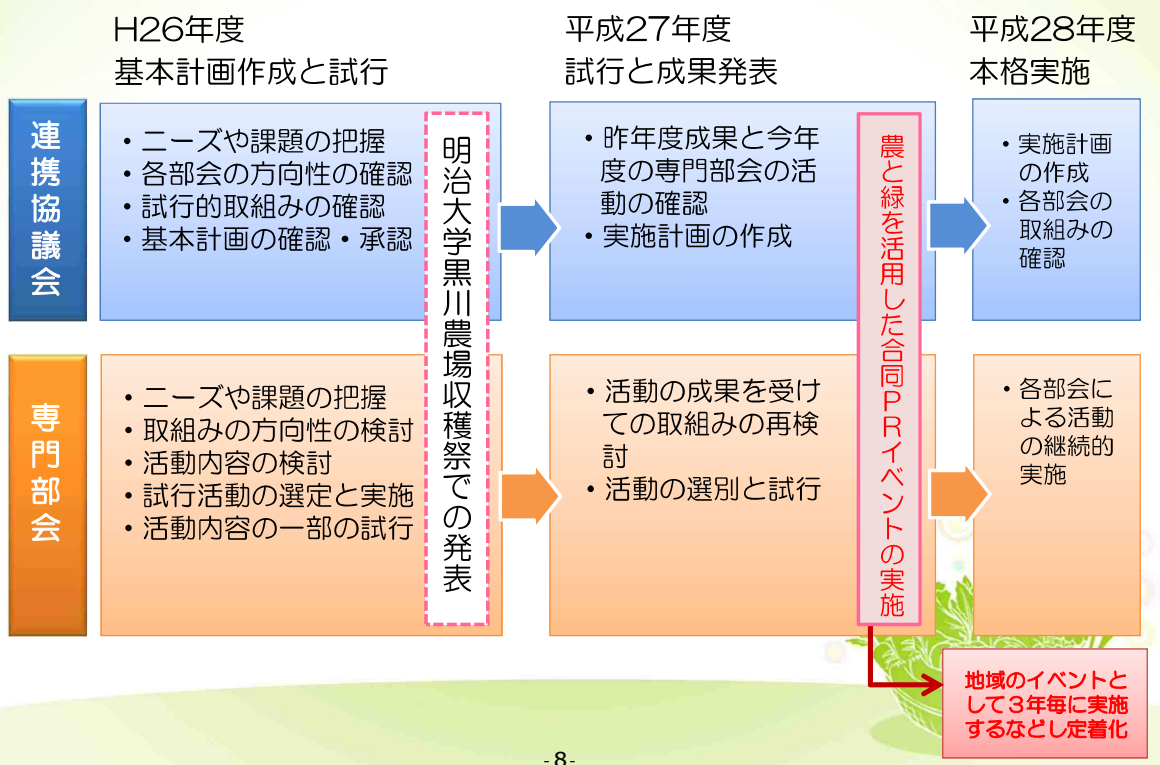
4

各専門部会の関わりと連携効果



5

実施スケジュール



農産物等研究専門部会



- 9 -

1 黒川地区等における農業資源

農地：農業振興地域280.8ha（黒川地区166.2ha、岡上地区73.7ha、早野地区40.9）（H17年3月時点）

直売所：ファーマーズマーケット・セレスモス
新鮮で安全・安心な農産物が提供されており、平日・休日を問わず買い物客でにぎわっている。

情報発信：農業情報センター（セレスモスに併設）
一般向けワークショップ（多摩川梨フェア、セレスモス試食会、食育ソムリエイベントなど）、出荷向け講習会（果樹、花き、環境保全型農業）、グリーン・ツーリズムイベント（ジャガイモ等の収穫体験）が行われている。

農産物：新鮮な地元野菜、かわさき農作物ブランド
黒川のトマト、黒川のキュウリ、禅師丸柿、多摩川梨、ホウレンソウ、コマツナ等の農産物ブランドがある。

市民体験：農家による貸農園や体験農園（農家）の実施
女性農業者（あかね会）での料理教室、子ども農業体験、農業イベント、その他なしやそ菜の援農ボランティア育成



黒川地区の風景



セレスモスの賑わい



セレスモスのイベント

- 10 -

2 市民アンケート結果まとめ（関連事項の抽出）

■市民アンケートについて

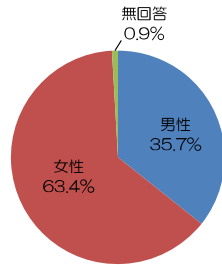
今回の専門部会開催に先駆けて、昨年の明治大学収穫祭において来場者に対し、アンケートを実施した。

実施時期：平成25年11月9日（土）

回答者数：112名（有効回答数111）

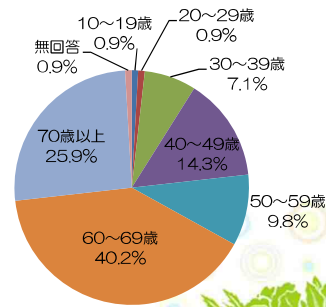
主な設問：収穫祭の評価等、セレスモスの認知度と評価等、黒川地区環境の評価等、かわさきブランドの認知度と評価等、今後の期待等

性別構成



男性40名 女性71名

年齢構成



20代以下2名、30代8名、40代16名、50代11名、60代45名、70代以上29名

2 市民アンケート結果まとめ（関連事項の抽出）

■アンケート結果の概要（当部会関連事項の抽出）

項目	アンケート	内容
明治大学 収穫祭の 催しへの 評価	収穫祭の催しへの評価 (Q3.4)	「野菜の展示卸売会」や「豚汁配布」、「水耕栽培によるサラダ試食を伴う大学研究紹介」といった 野菜を活用した催しが、評価が高かった。
	品物や催しへの期待と評価 (Q5)	野菜の展示卸売会を始めとする 野菜（販売）に関する今後の期待と評価が最も高かった。
セレスモ スへの評 価	セレスモスの利用経験と認知 度 (Q9・10)	回答者の 約9割が利用経験があり、毎週利用も約4割を占め、利用度は高い。認知度はほぼ全員が認知。利用理由は、「新鮮」「品数豊富」「安い」「地場農産物を扱っている」といった項目が上位を占めた
	セレスモスでのイベントの認 知度と評価 (Q11)	参加経験は約2割程度だが、 認知度は約4割 を占める。新たな品種た地方特産物試食の販売、料理教室試食会、ハイキング、コンサートなどがこれまでのよかったことや今後の期待するイベントとしてあげられていた。